

一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

式年遷宮の「御木曳行事とご用材」

第62回神宮式年遷宮が6年後の平成25年に予定されています。その行事はすでに平成17年の山口祭がスタートして順次それぞれの行事が行われてきています。平成18年5月から伊勢市にて第一次お木曳行事が行われ、一の宮巡拝会の有志が伊太祁曾神社宮司奥重視様のお計らいで「一日神領民」として初日の一番車、ご神木に近い場所で「お木曳き」に参加させていただきました。晴天の中揃いの法被で「エンヤ、エンヤ」の掛け声と木やり音頭に乘せられて、奉曳車に掛けられた綱を曳きうねり歩く様は荘厳で感極まりない一大絵巻物でありました。1,300年も続く伝統行事に参加した喜びはひとしおございました。その後、昨年11月には木曾郡上松町の池田木材株式会社の池田聡寿様のおはからいもあって我々は御用材の伐り出し現場をご案内させていただきました。「御杣始祭」(みそまはじめさい)は、伐採作業を始めるにあたり、ご神体をお納めする「御樋代」

(みひしろ)の御料材を伐採する最重儀であります。これらのご神木を探すわけですが、樹齢三百年余の檜林を見せられ池田様のご説明に一同納得感を深くいたしました。

また、去年は9月に「奈良一の宮シンポジウム&社叢百景展」を開催し関係者のご努力によって成功裡に終了いたしました。その様子はマスコミを通じて

紹介されました。各界の関係者の方々には厚く御礼を申し上げます。

さて、一の宮巡拝会では以上のように様々な活動を行い、少しずつではありますが巡拝会の存在や巡拝の慶びを感じていただける人々が増えてきてまいりました。本年は5月に岡山市で「一の宮巡拝会全国交流会」を行います。

期間中は、吉備津彦神社、吉備津神社、石上布都魂神社のご協力を得て開催いたしますので、是非ご参加いただきたいと思います。

一の宮巡拝会代表世話人 関口行弘



第61回式年遷宮「御杣始祭」跡地
 左が内宮、右が外宮の御神木「御樋代木」御料株

東京事務局開設

平成19年1月から下記の通り開設いたしました。

※関東近辺の方で入会を希望する方は下記へご連絡ください。

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12 第一大津ビル(株)アドワーク内
 電話：090-1658-0138 (03-5823-3901・社) ファックス：03-3865-2135
 E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp

急告 近畿ブロック第2回交流会 開催

場所：河内国一の宮・枚岡神社

日時：3月11日(第2日曜日)12時30分本殿前集合

参加費：1,000円(玉串料含む)

小説「全国一の宮」調元祖

橘 三喜 (第二十八回)

郡 順史・作 梶 鮎太・画

その夜三喜と島上平之進とは、桑名宿の脇本陣京屋小兵衛方に宿泊した。

まず湯浴みし、部屋へ戻るとすでに夕食の膳が用意されていたが、部屋隅に片付け、着衣をあらため、島上を床の間を背にした上座にすわらせ、三喜はその前にすわって両掌をつき、

「殿のご下命、拝聴仕ります」

と頭を下げた。

島上は無言で首肯すると、左手に持った紫袂紗むらさきふくさをゆくり解き、薄い奉書を取り出し左右一杯に眼のうえ高さに開き、読んだ。

長いものではない。ほんの十行ほどに書かれたものであるが、内容は、余は当分壱岐へは戻れぬ、さりとて神々を假居かりいに放置するは不敬の極み、よって再興の祭祀は、國家老滝川弥一右衛門が余の名代祭主となり、寺社奉行村松伊織之ほひつを補弼すべし。もとより祭祀式典の一切は神官橘三喜之を執るべし。といったものである。短くとも要領は外していない。「仰せ謹んで承ってございます」

三喜は再度深々と頭をたれた。

島上は奉書をたたみ、元の如く紫袂紗に包み直すと三喜に渡し、

「もう膳に直っても宜しうございましょうか」

と、少年のような笑顔うかを泛べた。余程腹がすいていたのであろう。

「そう致しましょう」

三喜は奉書を荷物の中に丁重におさめると床の間に置き、島上と向い合って膳の前についた。

食べ終わって茶を喫しながら島上が訊いた。

「拙者、殿から、橘さまにお手伝い申し上げる事があれば、このまま橘さまに付き従うようにとのご下命を頂戴いたしておりますが、拙者でご用に立つ事がございましょうか」

「やあ、それは有難い。祭典には必ず神楽の奉納がございまして。貴殿がお手伝い下されば大助りでございまして。どうぞお力をお貸したまわりたい」

橘 三喜 略歴

江戸前期の神道家。1635～1704・寛永11年～宝永元年・肥前平戸生れ。40歳の折全国一の宮巡拝を發願23年かけて完拝その記録を「巡拝詣」として遺した。

「御神楽？もうほとんど忘れ果てております。ご用に立ちましようか」

「ご心配はご無用。貴殿に舞えと申し上げるのではなく、設営用具などをあしらって戴きたいのです」

「ああ、それならば拙者にもできましよう。どうぞお引き回し下さい。それから一つ、お願いがあるのですが……」

島上は語尾を引くようにして、れいのあたたかい含羞はじらいをふくんだ微笑を泛べながら少年のように小首を傾げた。「どのような事とございましょうや。どうぞ遠慮なさらずお告げ下さい」

「その、拙者へのお言葉遣いを、下部の者へと同様に

お願い致したいのでございまして。先生が左様に丁重にお話下さいますと、拙者全身が凝るような一それに今日からは再び先生の弟子になるのでございましてから……」

また羞はづかしそうな笑顔を泛べた。

その島上の笑顔、口調を見、聴いていて、三喜は不意にただならぬ戦慄に似た感動をおぼえた。これが前号で述べた島上との不思議な偶然からの出逢いが神から与えられた幸運であったようだ。

三喜は、この時唐突に、諸國一の宮巡拝の事を思い、そして島上と一緒に連れて行きたい、と願ったのである。

三喜はその事をただちに島上に、生涯かけても全国一の宮を巡拝したいとの悲願を、言葉を尽して語り、そして訴えた。

島上は両掌を膝に、身を乗り出すようにして三喜の話に熱心に聴いていたが、三喜が話し終わると、激しい感奮かんぶんをおぼえたのか両眼を真赤にして、身を乗り出して言った。

「殿が、お許し下されば、ぜひぜひに、お供をさせて下さい」

「行って、下さるか。有難し」

三喜は膝を乗り出し、両掌をのばし、島上の両掌をがっきと握りしめ、何度も振った。 (つづく)



一の宮巡拜会
会員の店場

この頁は会員の皆様と創り上げて行きたいページです。一の宮巡拜の折々、感じた事を文に、視点を変えて見た写真など事務局までお寄せください。



御神木の説明が記されています



第61回御遷宮ご用材伐採跡地の榎林



上 第61回御遷宮「御杣始祭」(昭和61年6月3日)が行われた聖地
左下 内宮・右下 外宮の御神木(御樋代木)の切り株で切面には斧の刃形を見る事が出来ます



切り株の上には榎の新芽が育んでいます

平成18年5月5日~6日 第一次お木曳き行事 一番車を奉曳



奉曳参加の証札、四つ玉は御木に近い場所で曳かせていただきました



大中氏撮影



私達が曳かせて戴いた御木



北アルプス・雄山山頂からの眺望
室堂平とみくりが池・大日岳の後方に富山湾と能登半島が見える



雄山神社・峰本宮鳥居



聳え立つ雄山山頂と峰本宮社



橘 三喜の奥津城

武蔵国一の宮・氷川女体神社近辺在

平成18年7月30日郡先生と共に関東ブロック交流会で拝礼



本殿を護る狛犬「うん」



飛騨国一の宮・水無神社



特異な表情の狛犬「あ」

近日完成!! (一の宮巡拝の手引き冊子)
『全国一の宮巡拝のすすめ』



B5判 20頁 中綴じ
 予定頒価 500円

巻末付録に「神社参拝の作法などについて」を記載

新生の宮巡拝会世話人会が全力投球で企画した小冊子です。巡拝を実践中の方には、ご朱印帳と共に良いパートナーとしていただく為のガイド書として又巡で終ることなく巡拝を続ける会員・会友、新たに巡拝を实践しようとしている方々の為に、地図入り、簡潔な内容でより新しい情報を入れた手引き書として鋭意制作中です。

御朱印帳・千年和紙(手漉き和紙)で特別仕立ての御朱印帳と共に愛用していただける事を心より願っております。



全国一の宮所在地・社名入り地図

本文の一部

一の宮巡拝会
全国交流会のごあんない

日時 平成19年5月3日(木)〜4日(金)

集合 JR岡山駅西口 12時30分

スケジュール 1日目 5月3日(木)

岡山集合、バスにて吉備津彦神社へ(正式参拝)〜交流会、開会、代表世話人挨拶、14時お話し「吉備津彦神社の由緒と氏子・総代の方々と一の宮を巡拝して」宮司・守分清身先生、14時20分お話し「神宮」ご神木とお木曳行事「池田聡寿様(木曾上松・池田木材(株)専務取締役)、15時全員自己紹介・発表・感想・懇談、17時30分国民宿舎、18時30分懇親会

2日目 5月4日(金)

7時30分朝食、8時20分出発、吉備津彦神社へ(正式参拝)、11時石上布都魂神社(正式参拝)、13時10分日本三名園・後楽園、昼食・園内散策、15時30分岡山駅東口、解散

連絡先 中国・四国ブロック世話人 木下雅晴
 岡山市下石井二二二一八

電話〇八六一三二五二四七〇一
 FAX〇八六一三三二二五九三三

※詳細及び参加申込書は3月初旬に案内状を送付いたします。

一の宮巡拝会 入会申し込み受付中!

数千年の昔からご鎮座する一の宮神社。そこには癒しの森が広がり悠久の昔から今日まで連綿と受け継がれて来ましたが、日本人の叡智と日本人の心の再発見の場となる一の宮。全国一〇八社を巡拝しお互いの情報交換を行う本会に是非ご入会ください。

(年会費二〇〇〇円)

ご入会の方には年刊誌「一の宮巡拝」頒価二〇〇〇円を無料配布いたします。入会などお問い合わせは各事務局へ。



年刊誌創刊号 (上製本128頁)

平成十九年度 一の宮巡拝会
会員継続と新年度会費納入のお願い

平成十八年度は、新生となった巡拝会の初年度でございましたが多くの行事、活動を計画し実施してまいりました。特に9月に奈良で行った「奈良一の宮シンポジウム&社叢百景展」は有意義なイベントとなりました。マスコミでも多くの報道があり少しずつではありますが多くの方々に一の宮巡拝の素晴らしさが浸透しつつあるのではないかと思います。



巡拝会関係神社各位・会員・会友の皆様方のご協力の賜物であると感謝いたしております。つきましては、平成十九年度の会員継続と会費納入(同封の指定振込用紙にて)をお願い申し上げます。会費は年4回発行の会報・年刊誌「一の宮巡拝」第2号の発刊、その他会活動の諸元費となりますのでご協力の程お願いいたします。ご入金の確認後、新年度の会員証を送付させていただきます。会員ナンバーの変更はありません。

一の宮巡拝会事務局 創房関宮(有)内
 〒六六六-〇二一 兵庫県川西市大和東二丁三十一
 電話〇七二一七九一五二五八
 FAX〇七二一七九一五二五九

●入会金及び会費について
 一般維持会員 年会費 三〇〇〇円
 賛助会員 一口 三〇〇〇円(何口でも可)
 寄付金 お志し

●会費等お振込み先
 郵便振替(大阪)〇〇九九〇一五八二五五